

ふれ愛にしうち



第19号

太田西ノ内病院広報誌・第19号

発行/財太田綜合病院附属太田西ノ内病院

編集/太田西ノ内病院広報委員会

発行日/平成18年7月

住所/郡山市西ノ内2丁目5番20号 TEL (024) 925-1188

ホームページ: <http://www.ohta-hp.or.jp/>

新病院長挨拶

財団法人太田綜合病院副理事長
財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院院長



堀江孝至

私は本年4月に、110年を超える伝統があり、地域の中核病院としての責任を担う財団法人太田綜合病院の副理事長を拝命すると共に、財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院長に就任しました。今までは大学人として40年間を送りましたが、管理・運営面での経験を礎に新職に取り組み所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

我が国の医療を取り巻く環境は、多面的な要因が影響して年々厳しさを増しております。当院の医療現場では、中核病院の使命として救命救



急や周産期医療を始めとして高度な医療提供が求められていますが、一方で長期療養や介護を必要とする入院患者さんも多く、多様な、幅広い対応が求められています。就任直後から各種医療職の方々と直接話合う機会を持ち、非常に前向きに、熱心にそれぞれの担当役割に取り組んでいることを実感できたのは非常に嬉しいことでしたし、種々の課題を認識すると共に、現在以上に他の医療機関との密なる連携の必要性も実感しました。

このようなより良い医療提供を目指す現場に従事する多くの者にとって残念な傾向は、我が国において医療現場に対する厳しい批判が経年的に増加しているという現実です。

1960年代以降にアメリカで芽生え、急速に成長した人権運動などを背景に、医療に関しても患者側の権利意識が増大し、大きな変革が進行しました。私たち医師は、西洋医学の父として敬われる「ヒポクラテス」の誓いを医師の取るべき態度の基本であるとの教育を受け、その遵

守を心がけてきました。即ち、患者のために最善と信じる医療を行うことが医師の態度とされてきました。しかし、その姿勢は医師の独善的な「バターナリズム」で、患者の側に立った、患者中心の医療が行われてこなかったと非難されることになり、新しい学問体系が生まれ、インフォームド・コンセントが確立します。

太田西ノ内病院の理念は「生命の尊厳・平等の人間愛」であり、その達成のために6つの「約束」を掲げています。そこには「患者さんは真実を知る権利があり、医師には真実を告げる説明義務がある」という「インフォームド・コンセント（説明と同意）」の基本的法理が明確に盛り込まれています。これは非常に重要なことです。しかし、我が国ではアメリカが経験した論争の歴史を踏まえることがありませんでしたので、患者さんへの説明と納得を得た上で、診療の実践が言われながらも、医療を提供する側も受ける国民の側も、その真の意味が理解できていたのかという点は大きな問題であり、まだまだ未成熟な状況にあるのが現実のように思います。

病院長として取り組むべき課題は種々ありますが、当院が掲げる理念を実践することは私に課せられた重要な使命の一つと考え、地域に対する良き医療提供を念頭に取り組む所存です。

診療科紹介

神経内科

神経内科は、中枢神経（脳、脊髄）、末梢神経、筋肉におこる疾患を取り扱う診療科です。疾患の原因は、脳血管障害、中枢神経感染症、自己免疫を含む炎症疾患、変性疾患などいろいろですが、具体的には、脳梗塞、髄膜炎・脳炎、てんかん、頭痛、パーキンソン病、ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症などが挙げられます。

現在、当院は救急患者の受け入れが多いので、当科では神経救急疾患、特に脳梗塞を中心とした診断、治療に力を入れております。脳梗塞は、脳に行く血管が血栓（血の塊）などで詰まる事により、急に麻痺などが出現する病気で、一刻も早い診断と治療が必要です。幸い、放射線部の皆さんの協力により、近年では急性期脳梗塞の診断に欠かすことの出来ない頭部MRI拡散強調画像や脳血管を描出する頭部MRAを、脳梗塞が疑われる患者さんに限りますが24時間撮影可能です。また、入院後には脳梗塞の原因となる血栓や動脈硬化の検査を、心臓を含め大動脈、頸動脈、下肢静脈などについて行いますが、このとき有用な検査として超音波検査（エコー検査）が挙げられ

ます。これまた幸いなことに、実際に超音波検査をして頂く当院の生理検査部は、全国的に見ても技術レベルが高く、県内では間違いなく最高レベルと言えます。さらに、どうしても脳梗塞では運動機能、摂食機能、言語機能などの障害を呈する事が多く、その改善のためには、発症早期からのリハビリテーションが重要となりますが、当院のリハビリテーション部門には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がそれぞれ在籍し、入院直後から積極的に対応して頂いています。その上、脳梗塞が脳血管自体の病気だけでなく、高血圧、糖尿病などの生活習慣病や心房細動などの循環器疾患に起因する全身性疾患の一部であると言うことも考えられると、脳神経外科、循環器科、糖尿病科、総合診療科など、それぞれの専門科が存在し、専門医の先生がいらっしゃることで、より一層充実した治療が行える環境にあります。

しかし、このような状況の中でも、脳梗塞に対する実際の薬物療法などは、どちらかと言えば進行、再発を防ぐ2次予防的な側面が強く、脳外科の先生に血管の再開通を目的とした血管内治療を行って頂ける症例も、

適応が少ないため極僅かでした。そこに、昨年10月より静脈点滴で使用する血栓溶解薬（組織プラスミン/ゲンアクチベーター...t-PA）が脳梗塞の超急性期治療に使えるようになりました。この薬は、米国では10年前から使われている薬で、これまでの予防的な薬とは違い、血管を詰めている血栓を直接溶かし、血流を再開させることにより積極的に脳梗塞を治療する、という目的を持った薬です。上手く薬が効いた時には、麻痺などの症状が劇的に改善し消失することもあります。しかし、その一方、副作用で脳出血などの出



神経内科スタッフ

血性合併症を起こし、死に至る危険もある薬です。従って、この薬の使用に当たっては厳密な適応条件があり、特に大切なのは、「発症3時間以内に薬を投与する」と言う条件です。その他にもいろいろありますが、この「3時間以内」という事が絶対条件になりますので、脳梗塞が疑われた時は、一刻も早く受診することをおすすめします。脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）の特徴は「突然、急に」症状が出現する事です。米国の脳卒中キャンペーンでは、次のような症状が出現した時は救急車を呼び、すぐに専門施設を受診するように勧めています。①急な半身の脱力・しびれ②急な言語障害・意識障害③急な視力障害④急なめまい・ふらつき・歩行障害⑤突然の激しい頭痛。

脳梗塞診療を中心にご紹介させて頂きましたが、神経難病などを含めた難治症例や原因特定の困難な症例などにつきましては、山根先生をはじめ太田熱海病院神経内科の先生方にもご協力をいただき、症状などを考慮して適切な対応をするようにしております。

現在、神経内科は常勤医3名で診療を行っており、まだまだ人手不足は否めませんが、より迅速で適切な治療を行えるよう心懸けて参りますので、今後とも皆さんよろしくお問い合わせ致します。（部長 熊谷 智広）

西ノ内見聞録

在宅ケア

「ご自宅で自分らしく」



在宅ケアスタッフ

太田西ノ内病院在宅ケアは、5号館2階にあり、地域医療連携室やPFM室と同じ部屋で活動をしています。スタッフは看護師2名と保健師1名の計3名だけの部署です。

在宅ケアはどのようなことをする所かと申しますと、当院の在宅医療の実施と推進を行う所で、現在は特に小児在宅医

療とターミナル在宅医療を中心に行っています。対象となる患者様は、当院を退院または通院中の患者様で、当院の主治医が訪問診療をする患者様が前提となります。通院することが困難で、在宅で医療・看護処置を続けて行わなければならぬ状態の方が、ご自宅自分らしく過ごしたいという思いに対してお手伝いをしています。

昨年度は、訪問診療が平均月30件、訪問看護が65件でした。訪問看護に関しては、太田訪問看護ステーションや地域のステーションに依頼をして連携して行う方も大勢いらっしゃいます。患者様やご家族様の希望にお応えし、在宅で最期を安心して迎えただけできるよう、在宅での看取りも行っています。

入院中で退院後の生活に不安のある方、通院が困難な方、また在宅療養するのにどうしていいかわからないという方も、病棟や外来を通してお気軽にご相談

いただきたいと思います。対象地域は郡山市内になっておりますが、ご相談に応じたいと思いますので、よろしく願います。

(安藤富美子)



ここでは、西ノ内病院の各病棟・外来・その他さまざまな部署に潜入し、その全容にせまってみたいと思います。

中央処置室

「安全に安心して治療ができる環境の提供と、信頼していただける様な看護につとめる」



中央処置室スタッフ

平成18年4月より、本館南口の廊下左側に中央処置室が設置されました。今まで各外来で行っておりました化学療法は、各診療科ではなく、こちらの専用の部屋で実施しております。スタッフは、看護師2名(常勤、兼務)外来管理科長(相談役)呼吸器外科千田部長(最高顧問)薬剤師、各診療担当医(担当医制)

です。点滴のルート確保は中央処置室の私達が行っております。処置室はリクライニングチェア6台とストレッチャー1台で運用しております。又治療中は少しでも快適にリラクゼーション出来る様にテレビを設置、チェアは外の風景を楽しめる様に窓側を向け工夫しております。ブラインドは太陽の日差しがさし込む様に調整しております。血液内科、脳外科、外科、乳腺外科、耳鼻科、呼吸器内科、呼吸器外科、などで、週6日稼働、利用人数は1ヶ月約150名、要する時間は1〜7.5時間、年令は70才台までと幅があります。幸い患者様からは、「部屋が明るくて気持ちが良い」「場所がわかりやすい」「ストレスが半減する」「場所が近くて助かる」などのお言葉を頂いております。処置室がスタートして、まだ日が浅く、課題も多くありますが、少しずつ解決して、内容の充実をはかり、患者様が安全で安心して治療を受ける事が出来る様に、そして心やすらぎ時間、看護を提供する事を目標に熟女2名で努力してまいります。どうぞよろしく願います。(七海みづほ)



リハビリあれこれ⑦ 作業療法科の紹介② 身体障害分野の作業療法

太田西ノ内病院は救命救急センターがあり、リハビリの対象となる患者様は病気になる間もない方や事故等だけがを負った方が多く、入院してすぐにリハビリを行うため、「こんなに早くからやるの？」と聞かれることがあります。早期からリハビリを行い安静にしていることで起こる身体面や精神面での機能低下を予防し、より早く在宅・社会復帰ができることを目指しています。

身体障害分野の作業療法では、

①作業活動を通じて実際の生活に必要な筋力・関節の動き・感覚機能などの維持・改善を図るとともにスムーズな動きや耐久性の獲得を行う身体機能面に対しての働きかけ

②食事、更衣、排泄などの身辺動作や家事動作について、その動作ができない原因を評価し、自助具・福祉機器の相談と紹介等を含め、その人にあった適切なやり方・介護方法を訓練・指導する日常生活活動面への働きかけ

③入院や障害により、失われやすい精神活動や生活に対する意欲の維持・改善をはかるとともに、不安を和らげたり、自信づけを行う心理面への働きかけ

④生活に必要な時間・物の扱い方・周囲の状況の認識、物事の記憶、計算、動作の順序や方法を決定し遂行していくなどの能力を評価し、治療・訓練する高次脳機能面への働きかけ

などを目的に、患者様一人ひとりにあわせて作業療法を行っています。

患者様の状態や訓練の内容によって作業療法室や病棟などで行っています。作業療法室には台所や畳のスペース、浴槽などがあり在宅生活を想定した訓練ができるようになっていきます。また、部屋南側の窓全面からは屋上庭園が望め、庭に出ることもでき、そこに咲く季節の花々や香りを楽しむことができます。作業療法科は若さを生かし、明るく元氣あふれた場所、そして患者様が作業療法室に来ると落ち着ける・安心できる場所作りを心掛けています。

(作業療法士 鈴木 梓)



屋上庭園にて



調理動作訓練

放射線科あれこれ⑦

CT検査とは

最近では、かなり一般的な検査の一つとなっていますが、CT検査とは、X線を使用して、身体を輪切りした時の断面画像を作り診断する検査です。X線写真だけでは、診断し難いときなど、より詳しく精密に検査する方法として用いられます。



特徴は、全身のあらゆる場所の検査に対応しており、外側からは見ることのできない体の中の構造や組織の変化を、鮮明に撮影することができるといことです。実症例では、肺の検査や骨折、頭蓋内の出血の発見などに力を発揮します。また、造影剤という薬品を注射して撮影することで、腫瘍の発見、その状態の把握や血管の描出も可能となっています。

MRIなどと似ているため、ちょっと比較してみると

- ・ X線を使って検査
- ・ 骨、空気が見やすい
- ・ 検査時間が短い
- ・ 放射線被曝がある
- ・ 音が静か

CT

- ・ 磁気を使って検査
- ・ 脂肪、軟部組織が見やすい
- ・ 検査時間が長い
- ・ 被曝がないが金属は絶対ダメ
- ・ 音が大きい

MRI

このような差があり、それぞれの長短所を活かし選択して検査が行われています。

(大原 亮平)

オープンシステム勉強会

去る4月20日第13回オープンシステム（開放型病院）勉強会が、地域医療研修センターで開かれました。年2回開催しておりますが、今回は院長の交代もあり堀江新院長のお披露目もかねて呼吸器疾患特集でまとめました。まず院内より呼吸器科松浦部長より「増加するH1V感染症」を発表いただきました。続いて登録医の中から、開業してまもない数馬先生より「一般診療と睡眠時無呼吸症候群」の演題でご発表いただきました。ご存知のように数馬先生は心臓外科医としてメスを振る

ってきたわけですが、開業後は今話題の睡眠時無呼吸症候群の診療にも携わりその苦労と経験を楽しくお話いただきました。最後にミニレクチャー「睡眠時無呼吸症候群の臨床」を堀江院長よりご講演いただきました。さすがに太田理事長と共に長くこの分野を研究なさっているだけあって歴史・診断・治療・将来など多岐に亘る事項を短時間にまとめられ、とてもわかりやすい講演でした。懇親会には名譽理事長も参加し研修医・登録医の先生方と話が弾んでいました。（室長 迎慎二）



【材料】（2人分）

ゆでうどん	500g	トマト	1/2個
厚焼き卵	80g	サニーレタス	20g
焼き豚	60g	めんつゆ	適宜
かにむき身	30g	しその葉・ごま	適宜
胡瓜	60g		



〈1人分〉エネルギー 410kcal
たんぱく質…20.6g 塩分…3.8g



サラダうどん

彩食健美

「体がだるい、食欲が無い、冷たいものばかり飲んでいる」これらは典型的な夏バテの症状です。夏バテは「暑さ」というストレスを受けた体に食事や生活の乱れが拍車をかけて起きるものです。「自分は大丈夫」と思っている人でも、この季節は体が疲れているので油断大敵。

夏バテを防ぐためには「3回の食事をバランスよくとる」ことが大切です。ストレスに対抗するために主菜（魚・肉・卵・大豆製品）を食べて、たんぱく質を確保します。またミネラル・ビタミンの補給も夏には欠かせません。野菜や果物がおすすです。ただし水分の取り過ぎには注意しましょう。胃液が薄まって消化能力が落ちてしまいます。バランスの良い食事、十分な睡眠、適度な運動、規則正しい生活が夏バテを防いでくれます。

ムシムシと暑い日、ちよつと食欲が無い時にお薦めの麺料理を紹介いたします。

サッパリ食べられてバランスも良いサラダ感覚の麺はいかがでしょうか？

うどんやそうめん・冷麦でもOK！ぜひ夏の定番メニューに！

【作り方】

① ゆでうどんはよく水にさらし、水気を切っておく。

② 胡瓜は斜めに薄切りにする。サニーレタスは適当な大きさにちぎり皿に敷いておく。

③ 厚焼き卵・焼き豚・トマトは大きさをそろえた角切りにする。

④ ②の皿にうどんを盛り、厚焼き卵・焼き豚・かにむき身・胡瓜・トマトを盛り付ける。

⑤ 器にめんつゆと薬味を盛り付け、食べる時にめんつゆ・薬味を④にかける。



根本クリニック

平栗内科医院



大口クリニック



オープンシステム 情報ネットワーク

太田西ノ内病院では、患者さんに質の高い医療を受けていただくために、開業医の先生方と連携をむすんでいます。ここでは、太田西ノ内病院オープンシステムの登録医療機関、登録医師のご紹介をしていきます。

平栗内科医院

所在地/〒963-8006

郡山市赤木町12-15

電話/024-924-0207

FAX/024-924-0207

診療科/消化器科・内科・循環器科

休診日/土曜日午後・日曜・祝祭日

診療時間/月曜～金曜日

午前9:00～12:00

午後2:30～ 6:00

土曜日

午前9:00～12:00



平栗誠先生とスタッフのみなさん

院長 平栗 誠
昭和53年 福島医大卒業・第一内科入局
昭和54年 星総合病院内科勤務
昭和57年 福島医大第一内科に帰局
昭和60年 会田病院内科勤務
昭和62年 星総合病院内科勤務
平成9年 平栗内科医院開院

太田西ノ内病院には、救急患者さん、外来患者さんの入院、精密検査などで各科の先生方には大変お世話になっていきます。特に外科の先生方のていねいな手術報告は大変勉強になります。今後とも何卒よろしくお願い致します。

平成9年1月に縁あって赤木町に開業して今年で10年目になります。現在は桑野に住んでいます。赤木町は生まれ育った場所で普通だった安積幼稚園、赤木小学校が近くにあり私にとってなつかしい町です。診療は、一般内科、消化器を中心に行なっています。消化器は上部消化管内視鏡、腹部エコーを主に行なっています。大腸は診療所が狭く充分なスペースがとれないため、病診連携、診診連携を利用し他院に紹介しています。

登録医から

根本クリニック



昭和32年生
福島県立医科大学卒業
同 脳神経外科出身
平成6年 太田総合病院勤務
平成13年 根本クリニック院長就任

院長 根本 仁



根本仁先生とスタッフのみなさん

平成13年2月に開業して5年になります。太田西ノ内病院は当クリニックから最も近い基幹病院であり、大変お世話になっております。オープンシステムネットワークは最大限に利用させていただいており、毎週1回往診時間を利用して紹介患者の共同指導を行っています。入院している紹介患者さんの状態を把握できると同時に専門的な知識を教えていただくことができ大変役に立っております。また、今年から太田西ノ内病院の2年目の研修医を受け入れさせていただいています。2年がかりで苦勞して構築した電子カルテおよびファイリングシステムも研修医は数日で習得でき、研修指導というよりは一緒に勉強しているといった感じです。これからも太田西ノ内病院との病診連携を充実させていきたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

登録医から

所在地/〒963-8012

郡山市咲田1丁目5-11

電話/024-922-9405

FAX/024-924-1250

診療科/内科・脳神経外科・外科

休診日/土曜日午後・日曜・祝祭日

診療時間/月曜～金曜日

午前9:00～12:00

午後1:30～ 6:00

(2:00～4:00往診)

土曜日

午前9:00～12:00

大口クリニック



昭和45年 岡山大学医学部卒業
昭和45年 岡山大学医学部第3内科入局
昭和51年 医学博士号取得
昭和53年 宇和病院(副院長)
昭和62年 財太田総合病院・太田記念病院(副院長)
平成13年4月 内科・リウマチ科
大口クリニック開業

院長 大口 義人



大口義人先生とスタッフのみなさん

（財）太田総合病院に13年間お世話になった後、リウマチを専門として開業してから、この4月でまる5年となりました。もちろん内科一般や健診にも力をいれておりますが大半はリウマチ（リウマチ性疾患）の患者さんです。関節リウマチをはじめとした膠原病、痛風、変形性関節症や最近注目されている線維筋痛症などの患者さんです。最も多い関節リウマチの患者さんには早期から抗リウマチ剤で進行を抑えることに腐心し、難治性の患者さんにはレミケイドやエンブレルなどの最新の治療法で対処しております。いずれにしても難病が多いため（財）太田総合病院をあげてのバックアップをいただいております。

登録医から

所在地/〒963-8014

郡山市虎丸町8-2

電話/024-927-8588

FAX/024-927-8589

診療科/内科・リウマチ科

休診日/日曜・祝祭日

診療時間/月曜～金曜日

午前9:00～12:30

午後2:00～ 6:00

土曜日

午前9:00～12:30

往診・訪問診療/あり

★21世紀の申し子たち★

太田西ノ内病院で生まれた赤ちゃんを毎回紹介していきます。

質問

- ①生まれた時の感想
- ②子どもに願うこと
- ③ご両親の決意を一言

デ
ー
タ

あおき ゆうた
青木 雄太くん

- 平成18年6月6日
16時58分生まれ
- 体重2910g
- 父：青木 剛さん
母：青木 和恵さん



デ
ー
タ

こばやし さえ
小林 咲衣ちゃん

- 平成18年6月5日
0時18分生まれ
- 体重2860g
- 父：小林 憲司さん
母：小林 美智さん



雄太くんとお母さん・お姉ちゃん

- ①つらかったけれど、うれしい。
- ②元気に明るいです
- ③初心に戻って、娘と雄太の子育てをがんばります。



咲衣ちゃんとお母さん・お姉ちゃん

- ①ただ感動だけでした。
- ②思いやりのある子に
- ③家族が1人増え、楽しさも今まで以上に増えると思います。家族との時間を大切にしていきたいと思います。

投稿募集

太田西ノ内病院広報委員会では皆様からの原稿・写真等を募集しております。今後の広報誌に掲載してほしいものがありましたら、広報委員会までご連絡下さい。

編集後記



「病院で薬の待ち時間はどのくらいまでならがまんできる？」

「20分くらいだな。」父との会話の一部です。

当院では処方せんを受け付けてからお薬が出来上がるまで平均20分です。

しかし20分以上かかる場合も少なくありません。

待ち時間が長くなるのはゴールデンウィークの高速道路の料金所で渋滞がおこるのと同じ理屈です。一定時間に通れる車の数には限度があるように、お薬にも一定時間に作れる数に限度があるので、空いている時間帯は早く出来上がり、混んでいる時間帯はなかなか出来上がらないのです。

しかし我々は待ち時間を短くする努力を続けます。もちろん正確な調剤を第一としながらです。

(佐藤彦衛)

太田西ノ内病院広報委員会

委員長 須田 秀一
委員 後藤 桂子・佐藤 彦衛

大内 智子・松田美津子
柳沼 清一・増子イヅミ
鈴木 理恵・新里 昌一

中嶋 健起
佐藤 浩徳(幹事)